

<p style="text-align: center;"><b>地 理 ( Geography )</b></p>	<p style="text-align: center;">1 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修 機 械 工 学 科 ・ 情 報 工 学 科 担 当 水 谷 彰 伸</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>私たちが生活する地表ではさまざまな人間活動が営まれ、壮大な自然環境がこれを覆っている。この科目では自然環境や人間活動のしくみを理解し、地理的な視点を養い、現代社会に生きてゆくために必要な地理的知識を身につけていきたい。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>地表のさまざまな現象は地理的特徴に由来する、ととらえるのが地理学の基本的視点である。これらをテーマ別に概説し、その成立の原因を究明し過程について考察する。このことはその現象が直面する諸問題について考えるうえで重要となろう。そのために必要となる地理的な見方や考え方を理解し、これらを通じて独自の「地理的発見」を導き出してもらいたい。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>「社会科＝暗記」の印象が強いだろうが、これは大きな誤りである。個別の事象を認識するのはむしろ大事だが、「なぜそうなるか」の考察こそが教科の課題である。教科書・ノート用語を「覚える」のは勉強ではない。記述の「行間」に目を向けることがとくに地理では求められる。講義をしっかりと聴き、その内容を頭の中で整理することを心がけてほしい。講義で登場する地名は自発的に地図帳で確認すること。また作業・課題で色鉛筆(10 色程度)と定規(目盛付)を使用する場合がある。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p><b>前期中間・期末試験 後期中間・学年末試験：</b>講義内容(基本的な地理的事象・現象)の理解。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>成績は総合評価であり、定期試験点は原則としてそのうち 75%とする。残る 25%は授業時や休暇中の課題・作業など提出物の評価、および受講態度など講義への取組みに対する評価である。課題は正確・ていねいな取組みの様子と独創的な視点をとくに評価する。また当然のことであるが居眠りや私語などの受講態度の良くない学生には厳正に対処する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>①『新詳地理B』, 帝国書院。      ②『標準高等地図』, 帝国書院。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>① 1 : 25000 地形図「大和郡山」, 国土地理院発行。      ② 配付資料 (適時配付する)。</p> <p>※地形図は折り曲げず保管するように。第 1 回講義で折り方を教示するので持参すること。</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>歴史は時間的な流れを対象にするが、地理は空間的な広がりを見る。この空間は時間の経過とともにたえず変化しているので、両者を完全に区別して考えることはできない。したがって 2 年次以降の歴史と関連させて学習する必要がある。自然環境に関する分野では地学を中心とする理科の分野と関連する。なお地理的なしくみや考え方(法則性)は専門分野でのオリジナルな発想へのヒントとなる可能性をもつ。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第1週	オリエンテーション	授業の指針および世界の概要について。※地形図を持参すること。	
第2週	地球について	地球の形状と特性について。	
第3週	地図・地形図(1)	地図の歴史を通して読み取ることのできる世界観に関する考察。	
第4週	地図・地形図(2)	世界図のさまざまな図法とその特色について。	
第5週	地図・地形図(3)		
第6週	地図・地形図(4)	1：25,000地形図を中心とした地形図の特徴と読図の基礎について。	
第7週	地図・地形図(5)	地形図から読み取る地域の特徴や歴史について。	
第8週	地域調査(1)	地域の特徴や性格に対する「主観的なまなざし」について。	
第9週	世界の自然環境(1)	気候の形成要因について。	
第10週	世界の自然環境(2)	ケッペンの気候区分の考え方と気候の図的表現方法について。	
第11週	世界の自然環境(3)	ケッペンの気候区分にもとづく自然環境の地域的差異について。	
第12週	世界の自然環境(4)		
第13週	世界の農牧業(1)	ホイットルシーの農牧業区分にもとづく、自然環境・社会的環境の差異による農牧業の地域的な展開について。	
第14週	世界の農牧業(2)		
第15週	世界の農牧業(3)		
前期期末試験			
第16週	工業の立地(1)	ウェーバーの立地論にもとづく工業の立地類型について。	
第17週	工業の立地(2)		
第18週	工業の立地(3)	工業の歴史的・地域的な展開と日本の工業地域について。	
第19週	工業の立地(4)		
第20週	第3次産業と社会(1)	集落と近代以降の都市化について。	
第21週	第3次産業と社会(2)	商業の実態から見た都市の中心性について。	
第22週	第3次産業と社会(3)	現代の交通機関について。	
第23週	地域調査(2)	地域の特徴や性格に対する「主観的なまなざし」について。	
第24週	第3次産業と社会(4)	世界人口および人口構成の特徴について。	
第25週	第3次産業と社会(5)	日本の人口動向と人口問題について。	
第26週	生活と文化(1)	自然環境にもとづく食事の地域的差異について。	
第27週	生活と文化(2)		
第28週	生活と文化(3)	自然環境にもとづく住居・衣服の地域的差異について。	
第29週	生活と文化(4)	人間の便宜的区分、および文化を指標に分類される「民族」について。	
第30週	生活と文化(5)		
学年末試験			

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)